

---

# 共に朽ちた夢を見よう

ふいや

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

共に朽ちた夢を見よう

### 【Nコード】

N7846G

### 【作者名】

ふにゃ

### 【あらすじ】

俊介は恋人の卓夢に首を絞められていた。絞めている理由は「君の首を絞めた夢を見たから」

(前書き)

シリアス&二人が病んでいるかんじです。  
そういうの苦手な人は観覧を御控え下さい。

「…卓夢…」

『何？俊介』

「…手、離してくんね？」

『イヤだ』

俺の恋人…俊介は俺の上に乗っかていて、俺の首に手をかけている。手に力は入っていないが、いつでも絞めれますよ。のような顔つきで俺を見つめていた。

「なあ、俺何かしたっけ？お前に嫉妬させるようなこと」

『…うっん』

卓夢は首を横にぶんぶん振った。…じゃあ何で？

『俊介の首を絞める夢を見たんだ。』

「え…？」

『絞められている俊介の顔は妖艶で、切れた口から垂れる血。首に残った手の跡。何もかもが美しくて現実の俊介も素敵なのかな…っ  
て思ってたさ』

「お前に絞められたのか…」

『俊介…嫌？…』

別に嫌では無い。むしろ嬉しい。お前の夢の中にも俺が出るなんて、そして愛しのお前に首を絞められるなんて。

『こっやって俊介の首を掴んでると、ああこの手に力を入れるだけ

か入れないかだけで俊介の命を扱うことが出来るのか、なんて思う  
んだけどさ』

「…素敵じゃん。それ。」

俺は卓夢の手に俺の手を重ねた。

「じゃあ、さ、一生跡がつく位絞めてみてよ。」

『…いいの？もしかしたら僕…』

「俺はお前に殺されるのが本望だから。」

そう言っつて俺は卓夢の唇に俺のを重ねた。軽い、触れたか、触れな  
いかの軽いキス。

「狂っつるつて皆に言われてもいい。卓夢と一緒に朽ちることがで  
きれば俺は何もいらぬ。何も必要ない。」

『俊介』

「卓夢 ……一緒に狂った夢へ行こう？」

『いいよ。俊介が行きたいところなら僕は何処へでも連れて行って  
あげる？』

そう言っつて俺ら二人はくすくすと笑いあつた。

嗚呼、君に殺されるなんてどんなに幸福なことか。

嗚呼、君を殺せるなんてどんなに幸福なことか。

それ以上の幸福などあるわけないと二人で声を揃えて言つた。深夜  
2時。二人の声しか聴こえない空間で。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n7846g/>

---

共に朽ちた夢を見よう

2010年10月17日01時13分発行